

7 今後の改善方策について

1 各教科の課題

【国語】

- (小) 話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って質問すること
- (中) 資料を基にして自ら課題を決め、課題の解決に向け、具体的な情報収集の方法について考えること

【算数・数学】

- (小) 基準量、比較量、割合の関係を正しく捉えること
- (中) 証明の必要性和意味を理解すること。図形の性質について筋道を立てて証明すること

2 児童生徒質問紙調査から

- ◇ 小中学校とも授業の中で目標（めあて・ねらい）が示され、子どもたちが見通しをもつことにより、「何を学ぶのか」を理解します。子ども自らが目標を考え、それに向かって工夫する点や努力する点などを考えさせて、その基準に沿ってどこまで達成できたのかを評価することが大切です。
- ◇ 日常生活の中で、友だちの意見をよく聞き、自分の意見との共通点や相違点等に着目しながら、相手の意見を注意深く聞くことができるよう指導する必要があります。

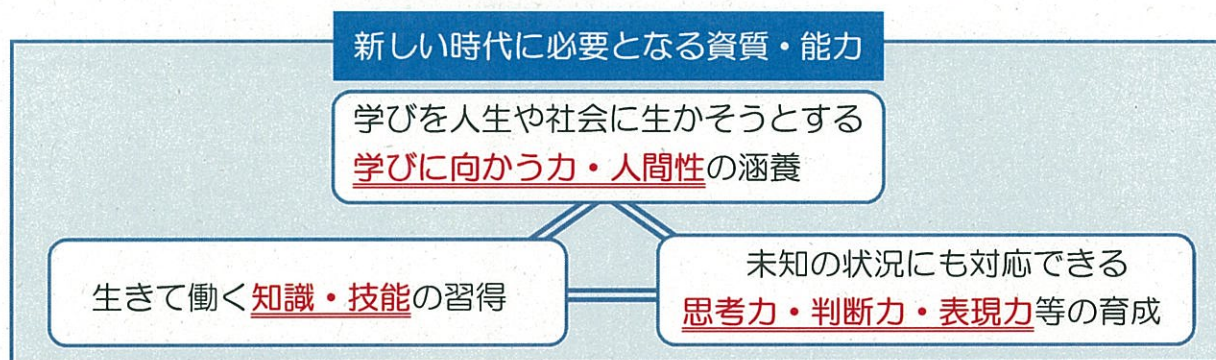
3 学校質問紙調査から

- ◇ 指導方法・学習規律に関わる項目のうち、「授業で目標を児童生徒に示す活動」や「授業の最後に学習したことを振り返る活動」は、量的な改善が図られており、今後は、質的改善を図る必要があります。
- ◇ 思考力・判断力・表現力を高めるために、各教科特有の用語の確実な定着を図ったり、文章や図などの資料、数式などを含む広い意味での言語を豊かにする教材を取り上げたりすることにより、児童生徒が学んだことを生活に生かそうとする意欲を持てるよう指導する必要があります。
- ◇ 小中連携において、その効果を高めるためには、教育課程のスムーズな接続や共通の目標を設定する等、一貫した教育課程における共通の取組が必要になります。また、各学校での授業研究等で、小中学校がお互いの授業を参観し合うような合同研修等を通して、互いの取組を理解し合うことが大切です。

4 今後の取組

学校は、子どもたちにとって、未来の社会に向けた準備段階の場であると同時に、学校そのものが一つの社会でもあります。子どもたちは、こうした学校も含めた社会の中でさまざまな人と関わりながら学んでいきます。そして、その学びを通じて自分の存在が認められることや、自分の活動によって何かを変えたり、社会に貢献したりすることなどを実感していきます。

国は、次期学習指導要領改訂の方向性（案）において、新しい時代に必要となる資質・能力として、次の三つの柱を掲げています。



この三つの柱をバランスよく膨らませ、子どもたちが大きく成長していくためには、教育委員会、学校、家庭・地域がそれぞれの役割を果たしながら、連携して取り組んでいくことが必要です。

教育委員会、学校、地域・家庭が、今一度、子どもたちの実態から、それぞれの取組を見直し、授業改善等の具体的な今後の取組につなげていきたいと考えています。

【津市教育委員会の取組】

（１）連続的、継続的な教育の推進

ア) 学力向上に向けた小中一貫教育の推進

- ・義務教育９年間を通じて、子どもたちに必要な資質・能力を確実に育むことを目指し、中学校区の小中学校間の連携した取組のさらなる充実を図ります。
- ・平成２９年度より、全中学校区において本格的に小中一貫教育を実施することから、平成２６年度より実施してきた小中一貫教育の取組について成果等を分析し、小学校から中学校への途切れのない支援が、効果的に展開されるよう指導・助言を行います。

イ) 幼児教育と学校教育の接続の強化

- ・小学校低学年は、幼児教育で身に付けたことを生かしながら教科等の学びにつなぎ、子どもたちの資質・能力を伸ばしていく時期であるということの共通認識を図り、保幼小中が連携した取組を進めていきます。

（２）授業改善に向けた取組

ア) 「授業改善マニュアル」等の活用

- ・研修会や指導主事の学校訪問等において、「授業改善マニュアル」（平成２８年１１月発行予定）を活用し、全国学力・学習状況調査から見てきた課題や次期学習指導要領の内容を踏まえた授業改善に関して、指導・助言を行い、授業力の向上を図ります。

- ・「授業改善マニュアル」については、作成に携わった現場の教員と指導主事による本マニュアルの説明や効果的な活用の仕方等について研修会を行い、積極的な活用を促すとともに、来年度以降も「教科編」を中心に改訂を行い、津市の教育のスタンダードとなるよう推進していきます。
- ・単元や題材のまとまりの中で、児童生徒が「何ができるようになるか」を明確にししながら、「何を学ぶか」という学習内容と、「どのように学ぶか」という学びの過程を組み立てていくことが重要であるため、内容と方法の両方を重視した授業改善に取り組みます。

イ) 指導体制の整備・充実

- ・教科の学習指導に関する改善のみならず、教科等を横断した教育課程全体の改善について、助言を行うことができるような教育委員会の体制を整えるとともに、各学校において、教科横断的な視点で教育課程の編成にあたることのできるミドルリーダーの育成を図ります。

(3) 教育環境の整備

ア) ICT機器等の効果的な活用

- ・ICT機器の効果的な活用、図書館等の積極的な活用を図り、子どもたちが意欲的、探究的に学習課題に取り組むことができる「授業づくり」を目指します。

イ) 情報活用能力の育成

- ・教育課程全体を通じて、発達段階に応じて情報活用能力を育成することができるよう、各教科等の特性に応じた指導内容の充実を図るとともに、アクティブ・ラーニングの視点に立った学習活動において、ICTを効果的に活用した学習の展開を図ります。

(4) 家庭や地域と連携した取組の推進

ア) 学校・家庭・地域が協働した取組の推進

- ・「地域でどのような子どもたちを育てるのか」といった目標やビジョンを地域住民や保護者等と共有し、地域と一体となって子どもたちを育む取組を推進します。

イ) 「家庭学習マニュアル」等の活用

- ・子どもたちの充実した学校生活や意欲的な学習態度は、家庭の生活習慣と密接な関係があります。そこで、規則正しい生活習慣や学習習慣が身に付けられるよう「読書ファイル」や「家庭学習マニュアル」（平成29年3月発行予定）を活用し、宿題等の具体的な取組について提示し、一人一人の子どもたちが家庭学習に意欲的に取り組むことができるよう支援していきます。

【各学校の取組】

(1) 連続的、継続的な教育の推進

ア) 学力向上に向けた小中一貫教育の推進

- ・各学校において、全国学力・学習状況調査結果を分析し、学校の課題や児童生徒一人一人の基礎的・基本的な学習内容の定着状況等を把握し、学校全体で課題改善に向けた具体的で実効性のある取組を行います。また、各学校単位で分析した結果を中学校区で共有し、中学校区の成果と課題を分析し、系統的、連続的な取組を推進します。

- ・これまでの取組の成果と課題を踏まえ、義務教育9年間を見通した系統的・発展的なカリキュラムを作成し、平成29年度取組につなげます。

イ) 幼児教育と学校教育の接続の強化

- ・小学校においては、生活科を中心に、幼児期に総合的に育まれた資質・能力等を各教科等の特性に応じた学びにつなげられるよう工夫します。

(2) 授業改善に向けた取組

ア) 「見通す・振り返る」学習活動のさらなる推進

- ・児童生徒が「めあて」を持ち、学習の見通しを立てたり、学習したことを振り返ったりする活動を計画的に取り入れ、「わかった・できた・楽しかった」が実感できる授業づくりを行います。

イ) 「授業改善マニュアル」等の活用

- ・「授業改善マニュアル」等を活用し、主体的・対話的で深い学びにつながる授業改善に努めます。

ウ) ICTの効果的な活用

- ・児童生徒の主体的・対話的で深い学びにつなげるために、協働制作、発表、データ分析、調査活動、遠隔授業等において、ICTの効果的な活用を図ります。

(3) 家庭や地域と連携した取組の推進

ア) 学校・家庭・地域が協働した取組の推進

- ・学校支援ボランティア等の活動に、地域住民や保護者等、多様な主体の参画を促進し、地域ならではの創意や工夫を生かした学校づくりを行うとともに、地域住民等の当事者意識の醸成を促していきます。

イ) 家庭での生活習慣や学習習慣の改善の取組

- ・「スマホの使用ルール」等の子どもたちの主体的な取組を実効性のあるものにしていくとともに、生活習慣の改善について家庭や地域との連携を図ります。
- ・家庭学習については、基本的な知識や技能の確実な定着を図るため、宿題や自主的な予習・復習及び読書活動について、一人一人の学習環境や発達段階に応じた指導・支援及び評価のあり方について、学校全体での共通認識のもと、家庭と連携し一体となって取り組めます。

【各家庭の取組】

(1) 早寝・早起き・朝ごはん 基本的な生活習慣の確立

- ・基本的な生活習慣は、すべての基本です。子どもたちの健やかな成長と確かな学力の定着のために、基本的な生活習慣の確立が必要です。
- ・メディアとの接触時間やスマートフォン等の適正な使用など、発達段階に応じた家庭での指導が重要です。

(2) 子どもが主体的に取り組む家庭学習

- ・家庭学習の習慣を身に付けるためには、家庭の協力が必要です。家庭学習の時間を確保するとともに、子どもの頑張りを認め、励ますなどの取組が大切です。

(3) 家庭や地域でのコミュニケーション

- ・日常生活の中での挨拶や対話は、家族との信頼関係を築き、子どもたちの自尊感情や自己有用感を育むことにつながります。